



幸せな未来のために
“真っ直ぐに”

永森直人

県議会通信

Challenge spirit Vol.23
令和5年7月号 (R5.7発行)

新任期がスタート。政務調査会長に就任しました!

4月9日に行われました富山県議会議員選挙において、4期目の当選を果たさせていただき、4月30日から4期目の任期がスタートしました。



組織議会集合写真

改選後の人事におきまして、私は、自民党議員会(自民党富山県連)の政務調査会長を拝命しました。

議会内においては、自民党議員会は定数40人中30人を擁する最大会派であり、政務調査会長はその中であって会派の政策決定を担う重要な任務です。30人の個性あふれる議員の思いや情熱を政策に反映できるように精一杯取り組んでいきたいと思っています。



政務調査会正副部会長会議

議会は硬直化する県政にインパクトを

急速な人口減少社会を迎え、一方で、本格的なDX社会の到来が予見される中、地方政治のあり方にも大きな変革が迫られています。

県庁は、新田知事を先頭に3,000人以上が働く巨大組織であり、また先例や慣習を重視し、行政の無謬性が前提とされる中、行政当局による変革には限界があるのではないかと、私は、感じています。

そして、そんな今こそ、県議会に出番があるのではないとも思います。

とりわけ、県議会で過半数を握る自民党議員会が、未来を見据えたダイナミックな政策提言を行い、知事はじめ当局を突き動かす、原動力になっていくべきであると考えています。

県議会や政務調査会が、しっかりと政策論議を行った上で、どんどんと県民のもとへ飛び出し、意見交換をし、県民とともに、県政の未来を語り、政策をつくりあげていく。

こうしたことを実行する中で、はじめて県議会の役割を県民の皆様へ認知していただけるように思っています。

皆様方の声を大切にしながら、地域課題の解決に全力を尽くしつつ、未来に向けて幸せで豊かな社会をつなぐために取り組んでいきますので、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしく申し上げます。



2 高校再編議論は待たなし!

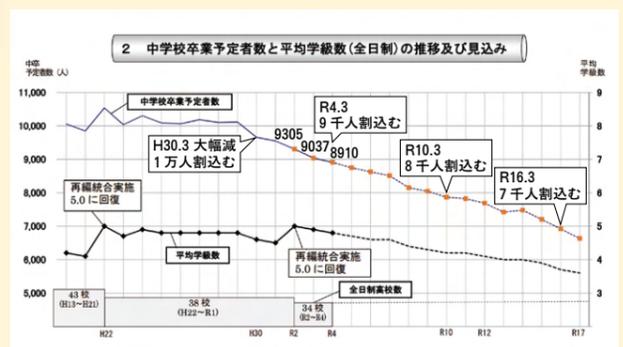
【厳しさを増す県立高校の学級編成】

昨年夏、県立高校の令和5年度学級編成にあたり、学級減となった氷見高校と雄山高校をめぐる議論が紛糾したことは、まだまだ記憶に新しいところです。

背景には、急速な少子化の流れがあり、令和2年の再編統合時(9305人)に比較して令和6年度は(8,629人)と676人減となっています(40人学級換算で17学級分に相当)。

こうした状況を背景に、現在の県立高校の学級数をみると、高岡学区においては、ほとんどが4学級以下という厳しい状況となっており、これ以上、どこで減らせばよいのだろうかという状況となっています。

教育委員会では、少人数学級を導入するなど、学級減を最小限にとどめる努力をしていますが、限界が近づいていることは明らかです。



中学校卒業生数の推移

1学年の学級数	学校名
7学級	高岡工芸(工7)
6学級	高岡(普4、探2)
5学級	高岡商業(商5)、氷見(普2、農水1、商1、家1)
4学級	小杉(総4)、新湊(普3、商1)、高岡南(普4)
3学級	大門(普3)、伏木(国3)、福岡(普3)

【富山県教育の未来を考えるプロジェクトチーム設置】

今後さらに少子化が加速度を増して進む中、県立高校・私立高校を含めた高校再編の議論は待たなしの状況となっています。

そんな中、自民党富山県議会議員会に「富山県教育の未来を考えるPT」を設置し、私は座長に就任しました。先に述べた通り、県立高校の小規模化は進んでおり、なんらかの手を打たねば、子どもたちに多様な学びの選択肢を示すことが困難となります。

他方で、単に子どもたちを偏差値で振り分け、「偏差値にあった行ける高校を目指す」という、従来型の高校教育に疑問の声が多いのも事実です。

生徒が激減するという大きなピンチではありますが、長年積み重ねてきた富山県の高次教育を大きく変えるチャンスともいえます。子どもたちに、どのような学校の選択肢を用意してあげることができるのか、根本的な議論を積み重ねていきたいと思っています。



プロジェクトチーム初代会

県教育委員会において、今後行われるであろう県立高校再編議論に、自民党議員会として大きなインパクトを与えられるような提言にしていきたいと思っています。

そのためには、現場の声を徹底して聞くことが重要と考えます。高校教育を考える動きを県民運動的に盛り上げていくことができると考えています。

意見交換の機会も大事にしたいと思っており、ぜひ気軽にお声掛けいただければと思います。

〈略歴〉

生年月日/昭和50年1月20日生まれ
住 所/射水市三ヶ
経 歴/小杉小学校、小杉中学校、高岡南高校、
東京都立大学経済学部卒業
家 族/妻、長男(大学2年)、次男(高校2年)

48歳

平成9年4月 富山県庁入庁
ロシア・ウラジオストク派遣留学、広報課、高齢福祉課では特別養護老人ホームの待機者対策などの施策に取り組む。
平成22年9月 富山県庁退職
平成23年4月 富山県議会議員に初当選(現在4期目)

主な役職
自民党富山県連政務調査会長 自民党射水市連合支部支部長
自民党小杉連合支部支部長 射水市消防団南部方面団団長
保護司(射水市保護司会) 小杉まちづくり協議会会長
NPO 法人日本応急手当普及員協会顧問 (令和5年7月現在)



富山県教育の未来について

問 知事はフリースクールへの経済的支援を検討することを明らかにしたが、実態をどのように把握し、具体的にどのような支援を検討していくのか？

答 (知事) 射水市のフリースクールを視察し、運営者側からは、「フリースクールのニーズは年々高まっているが、利用料金の負担が厳しい家庭もあり、さらなる公的支援を検討してほしい」との意見をお聞きした。

現場の実情や課題等をしつかりと踏まえ、こどもの居場所の拡充促進について協議することとしており、その中で、さらなる支援策について検討してまいりたい。

問 県立高校再編の議論は、令和9年度以降に向け、どのようなスケジュールで進められていくのか。

答 (教育長) 先般、県立高校教育振興検討会議を設置し、県立高校の①再編に関する学校規模や基準、②学科やコースの見直し、③様々なタイプの学校・学科等について検討することとしており、

5回程度開催し、今年度中を目的に最終的な報告書を取りまとめた。令和6年度から新しい学科やコースの開設、高校再編等の具体的な対応について、検討を進めていく予定である。

問 今回とりまとめる高校再編の基本方針においては、どの程度の生徒数を織り込んで議論が進められると考えればよいのか、所見を問う。

答 (教育長) 「高校生ファーストで考えるべきということを念頭に置きながら、今後10年、20年先の富山県の教育がどうあるべきかを議論したい。」などのご意見をいただいた。

今後10年余りで、2,500人以上の子どもの数が減少し、約3割減となる少子化の状況を踏まえて、高校の魅力化・活性化について検討することが必要と考えている。

問 県立高校の令和6年度以降の当面の学級編制において、学級数の減少は最小限にとどめ、少人数学級の導入による対応を検討してはどうか？

答 (教育長) 現在の中学3年生について、委員ご提案の少人数学級の導入による定員減で対応した場合、令和6年度に必要となる県単独での人件費負担は5

答 (知事)

鉄軌道ネットワーク全体で利便性の向上を図るためには、他線への乗入れは有効な手段の一つである。

一方で、あいの風とやま鉄道など電化路線の車両は、城端線・氷見線等の非電化路線に乗り入れることができない。お互いが電化路線でも、交流のあいの風とやま鉄道と直流の富山地方鉄道では電化方式が異なり、相互乗入れには、変電所等の設置(1か所約3億円)、或いは交直流車両の導入(約5億円)などの大規模な整備が必要で、整備費用が多額となるため、現状ではハードルが高い。



問 新たに策定する地域公共交通計画においては、城端線・氷見線やあいの風とやま鉄道などの県内鉄軌道網の運用の在り方、相互乗り入れ、ダイヤ連携などについても議論を進めるべき。

答 (交通政策局長) 県としては、新たな検討組織を設置し、今年度中の事業実施計画策定を目指す。

また、検討の対象事項は①新型車両の導入やレールの強化、ICカード対応など利便の確保②事業の実施予定期間や事業の実施に必要な資金の額及びその調達方法③事業主体などについて検討を進めていきたい。

千万円程度の増額が見込まれる。

現在、県立高校教育振興検討会議において、今後の中学卒業予定者数減少への対応について議論されていることから、その結論が出るまでの間は、当面の対応として少人数学級とし、学級数減を行わないことが可能かどうかを含め、令和6年度の学級編制について、総合的に丁寧を検討したい。(関連県政レポート2)



習場所確保の問題を含めて、障害者スポーツの拠点確保について、どう対応するのか。

答 (知事)

県立学校施設を一般に開放する学校体育施設開放事業の一環として、県立学校の中で、既に、通路やトイレなどバリアフリー対応が一定程度施され、車椅子を使用される方々などが利用しやすく、また、今後、車椅子スポーツでも利用できる可能性のある体育館を持つ学校を候補として、教育委員会と連携して検討を進めている。

車椅子スポーツで利用できるよう体育館等を整備・改修する課題などもある。今後、学校関係者、障害者スポーツ団体、関係部局等と、スピード感を持って調整を進めてまいりたい。(関連県政レポート1)

問 富山県武道館については、なるべく幅広いスポーツに活用できるようにすることを検討してはどうか。

答 (生活環境文化部長) 県としては、武道に限らず幅広い種目で利用していただくことは、県民のスポーツに親しむ機会の拡大や利便性向上などの観点から重要なことであり、また、施設運営の面では、稼働率の向上、利用料収入の確保にもつながると考えている。

今ほど委員からいただいた意見や検

スポーツの振興について

問 富山市勤労身体障害者体育センターの閉鎖が令和6年度末に迫る中、車椅子バスケットボールなどの練



1 車椅子バスケットボール練習場所確保の問題に方向性が出ました！

【苦悩する車椅子バスケットボール関係者】

「富山市勤労身体障害者体育センター(富山市水橋)」は、障害者が優先利用できる県内唯一の体育施設ですが、老朽化のため、2024年度末に廃止されることが決まっています。

同センターを拠点として練習に励んでいる富山県車椅子バスケットボールクラブからは、廃止後の練習拠点確保について不安の声が出ていました。

【県議会で県が新たな方針示す】

私は、県内のバスケットボール関係者から、この問題に対し力を貸してほしいとの依頼を受け、県議会でも昨年この問題を取り上げてきました。

率直に言うと、知事からは、これまでは前向きな答弁は聞かれませんでした。

しかし、その後も、水面下で、県当局に対して粘り強くお願いしてきたところ、6月21日の県議会予算特別委員会にて、知事から、『県立学校の体育館の学校開放の一環として、バリアフリーなどの条件を満たす体育館を改修して、障害者の方に優先的に使ってもらえる施設にする検討を行う』との答弁がなされました。大きな進展であり、良かったと思っています。

今後とも障害者スポーツ団体と県当局をつなぎ、より良い施設整備となるよう取り組んでいきたいと思います。